

●5月13日 午後に太田さん金田さんによってヤマトサンショウウオ幼生を上の池で確認

4月24日導水路に土嚢が置かれ干しあがって水生生物が絶滅したと考えられてきましたが、上の池（これまでは生育が確認難しく、昨年の調査会で成体が1匹確認できていますが、かなり下の池に比べて厳しいように見えます）で幼生が5匹確認されました。少しぐらいの悪条件（溶存酸素濃度が低くても）を乗り越えてここで生存できていることでサンショウウオの対応能力があることを知ることができました。16日にも3匹の幼生が見つかり4cm程に成長していました。ヤゴ、マツモムシ、ミズムシ、タイコウチ等が見つかりましたが、昨年はアメリカザリガニが大変多く確認されていたのですが今年はまったく姿を確認出来ません。なぜなのでしょう、不思議な現象となっています。

●木村さん「絶滅危惧種入門」について話題提供で 深まった勉強会

里山の会にこの四月にご入会された木村敏和さんが、里山農園でこれまで見た事のない「タコノアシ」の生育に出会って、直持ち前の好奇心が刺激され、こうした勉強会がされるなら、学習して話題提供になればと申し出ていただきました。参加していただく中にはこれから学習や活躍するための役立つ資料提供をいただきました。絶滅危惧種としての位置づけや、取り扱いに対する処罰、などをわかりやすく解説いただきました。里山農園周囲にはこうした考え方で大切にしなければならない環境が残されているので、良い学習の機会になりました。ありがとうございました。続いて、お母さん連中から5月24日に植物観察を実施予定の報告あり、山下さんからは木津川では一か所で（京都府下では福知山でした確認されていなかった）3本の生育から約6年がかりで生育の世話を担当頂いて今では20㎡に80本になるまでイヌハギの増殖をした苦労話が報告され、これから管理維持してくれる後継者の必要性が報告されました。続いて新理事の野村さんから第25回自然と環境講演会（オオサンショウウオ）の経過と秋の講演会の構想発表がされて。常務理事の山村から植物観察会や魚とりの予定・ホテルの夕べの計画の報告があり、光田新理事長が「ナヨクサフジ」の大変珍しい純白の花が紹介されました。（一般的に赤紫色）こうした状況報告をもとに大いに交流を深めあう2時間があっという間に過ぎました。

●琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の定期総会が開かれる 5月14日

2022年度の事業報告では近畿の水害記念碑を訪ねるツアーが大阪和歌山滋賀京都と4か所を訪れた事や、さくらであい館での11回のリレー情報交流会が報告され、36万円の決算と監査報告が承認され、2023年度事業計画で情報交流会は座談会を加えた参加型に改良を図り3回を予定して、毎月開催。そして子供たち向けに夏休み課題解決コーナーや、11月には講演会開催など計画が決定され、予算案・約60万が決定された後、河合典彦先生から「淀川などの外来種」についての問題提起がされ、全員での座談会が開かれました。外来種の持ち込みはあくまで人工的な作用によってされるもので、渡り鳥などのように自力で来るものは外来種とされていない事が説明されました。和歌山でのニホンザルの交雑によるものと沖縄でのマングースによるハブ退治とそのマングース導入とその失敗対策への徹底実施の大切さ等のお話がされました。座談会では外来種に問題があるのではなく人間の無神経さと、そして経済に利用する側に責任があること、まだまだ自然界（動植物）から学ぶべきものが沢山あることが強調されました。そして次世代の子どもたちに自然体験の場を通じて学べるようにする必要性が強調されて座談会が閉幕とされました。外来種問題から出発して教育問題にも関係が広がり、そして大人の責任、関係者の頑張らなければならない状況へと話が発展してゆくなど充実した話し合いになりました。

●淀川イタセンネットワークの外来魚駆除大会 福井さんが参加 5月14日

大阪工大近くの城北ワンドに娘さんの運転で小雨の中、出かけていただきました。そこには綾先生や石田先生、河合先生等お世話になっている方々と子どもたちが沢山仕事をされていました。綾先生とのお話で木津川での外来魚釣りには30本ほどの釣竿(4m)があるので貸し出しますと心強い返答をいただきました。また石田先生からは木津川の予定されている三つのワンドのうち真ん中のところはゴミが多いと思うので、その除去をしなければ地引網は使えない、と助言をいただきました。外来魚の駆除のためには釣りも大事ですが地引網による対応が効果的だとのことでした。また釣り大会の持つ意味は除去だけではなくて関心を持ってもらう取り組みとしては良い計画だとも賛同をいただきました。一般の方々の参加を得るにはできるだけ水辺に近づけるように周囲の草刈りを丁寧にしておかなければと感じました。この日は午前中に釣り大会がされ、午後からは地引網によって子どもたちと一緒に一網打尽に捕獲してイタセンパラなどの生育を確認されていました。二段構えの取り組みがされました。昨年に引き続いてイタセンパラの発見は厳しいと判断されていたと報告いただきました。遠いところまで出かけていただき、秋に計画している準備のために取り組んでいただき大変ありがとうございました。

●レンリソウが咲いているかと堤防(DCM上流)を散策しました。

これまでは少なくとも1輪は見つけることができ胸をなでおろしてきました。しかし今年は目を皿のようにして探しましたが見つけることは出来ませんでした。温暖化で気温の変化が激しく季節の移り変わりが早くなったのかもしれませんが。カラスムギやアカツメグサ、スイバ、ミヤコグサが咲き誇り、ナヨクサフジがあちこちで目立ちました。以前に移設してきたところでは数年前との様子が全く変わり、この元気な草たちに勢いで負けてしまうと感じました。木津川で2007年に初めての発見場所には影も形も確認できなくて、悲しいですが消滅してしまったと判断せざるを得ない状態となりました。私たちが調査管理を開始してから今までにハマハナヤス、スズサイコ、ツルフジバカマの自生地を失ってきました。一方では6年ほど前には木津川での生息地で3本ほどであったイヌハギは山下さんの懸命の手入れが効果を生み出して80本の株を数えるほどになっているところが出現しました。うれしい報告です。

●木津川の堤防を散策しませんか 植物観察等 5月27日

イヌナズナ ミヤコグサ アザミ カラスムギが咲いています。ひょっとしたらレンリソウが見つかるかもしれませんよ。近鉄新田辺駅西口5月27日9時30分にご集合ください。時間になれば木津川に向かって出発します。途中には都市幹線排水路(防賀川)桜堤公園 近鉄鉄橋 神矢樋門 天井川 山砂利採取跡地の遠望があつて説明できないほどの豊かな事物があります。一度散策においでください。ゆっくり歩いて約2時間のコースです。